

学位被授与者氏名	件 真真
論文題目	色彩嗜好と意識的性格との関係性
論文審査結果の要旨	<p>このテーマに関連する少なくとも本邦で行われた研究についてはよく渉獵されており、充実した研究史としてまとめられている。キーワードが具体的なこともあって、先行研究の理論枠組みや分析アプローチがもともと多少閉鎖的なところがあるが、そのおかげでこれまでの研究群をうまく整理することができ、問題点や改善策がわかりやすく提示できている。</p> <p>色彩嗜好の測定方法を複数用意することによって、性格との関連がある場合と無い場合を再現できれば仮説を支持するさらに説得力のある研究になったと思われる。また、色彩の測定に合わせた SD 法で性格の測定を行ったことにより尺度の妥当性がやや低くなったことや、調査対象者数が少なかつたために、男女で分けて行う分析や、好きな色として暖色を選んだ群と寒色を選んだ群とに分けて行う分析などができなかつたことは悔やまれるが、好きな色のイメージと理想自己としての性格との強い関連が見い出せたことは十分な意義を認めることができる。</p> <p>現実自己としての性格はかなり否定的にイメージされて理想自己との差も大きかつたという今回の調査結果は、対象が日本の大学生で女性が多かつたことに由来するとも考えられ、対象を広げて調査することで現実自己としての性格と色彩嗜好との関連はもっと詳しく明らかになると考えられるが、そのような対象者の問題点についても考察において的確に指摘できている。</p> <p>2021 年 2 月 19 日に、審査委員全員出席のもとオンライン (Microsoft Teams) で最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>